

## 「余暇政策における大地の芸術祭の優秀さ」

3年に1度、私の地元である新潟県越後妻有地域で開催されるのが大地の芸術祭である。まるでオリンピックのようである。「人間は自然に内包されている」という基本理念をもとに開催される大地の芸術祭は普通の芸術祭とは一味違う。一番の違いは、アート作品を一か所に集中的に展示させているわけではなく、200の集落に作品を散在させているところにある。一点に作品が集中していれば、訪れた人々にとっては楽かもしれない。しかし、そこをあえて非効率的にすることで、訪れた人々は現代の効率化した社会から一時離れ、非効率的な里山の自然に返ることができるわけである。また、近代美術館のように、静かに作品を観覧しなくてはならないわけではない。作品は、民家の隣といった生活に密着した場所に散在されており、人々は五感を解放し、生の素晴らしさを全身で感じとることができる。越後妻有地域ならではの自然を生かした作品は、訪れた人々に現代アートと融合した異様な、しかしそれでいて懐かしみのある空間を提供している。

訪れた人々を魅了する一方で、大地の芸術祭は、越後妻有地域の地域づくりとしても大きな役割を果たしている。越後妻有地域の住民は、「観客として」だけでなく、「協働者として」大地の芸術祭に参加する。アーティストは県外、海外アーティストも多い。そのため、地域に根付いた、地域の自然・歴史を生かした作品を作るためには、必然的に現地の住民とアーティストがコミュニケーションをとる必要性がでてくる。住民が地域の歴史や最近の出来事について情報提供し、それを基に話し合いをして、アーティストが作品を作る。また、地域住民同士でも何度も何度も話し合いがなされる。つまり大地の芸術祭はコミュニケーションの場としても非常に大きな役割をもっているというわけである。海外アーティストが手掛ける作品も多いため、自然と異文化交流も発生する。田舎で普段なかなか海外の人とコミュニケーションをとる機会がない地域住民の人たちは非常に喜びながら、海外のアーティストとコミュニケーションをとっているようだ。大地の芸術祭によりアートだけでなく「人と人のつながり」も創り出される。

たくさんの人々に来訪してもらっているが、大地の芸術祭は地域住民と県外・海外人とで楽しみ方が違うように感じる。地域住民にとっては、町を何気なく歩いているだけで素敵な作品に出くわす可能性は大いにある。しかし、県外・海外人にとっては、それは難しい。作品は760 km<sup>2</sup>もの広大な土地に散在されているため初めて訪れた人々にとっては土地勘がなければ非常に困難なことである。しかし、そういう人たちのためにパスポート制度がある。大地の芸術祭のパスポートを買うと、作品が置かれている場所がわかるマップとスタンプラリー用紙をもらうことができるのである。点在する作品の近くにはスタンプラリー用のスタンプが置いてあり、それが子どもたちを大いに楽しませている。また自転車の貸し出しも行われており、県外・海外人はよくそれらを有効に使っている。こういった様々な工夫を施し、初めて新潟県を訪れた人でも楽しめるような仕様になっている。

「地域づくり」「人と人のつながり」を含めた大地の芸術祭は余暇政策として誠に優秀なものである。何度も訪れている私もまだ飽きを知らない。